令和6年度 第5回 政策決定会議 会議録

-
- ◆開催日時：令和6年9月27日（金） 10：05～10：18
 - ◆開催場所：市長公室
 - ◆出席委員：永野市長、波積副市長、岸副市長、大下教育長、西川総合政策部長
 - ◆説明者：寺本財務部長、浅野財政課長、高木主幹、高橋予算担当長
-

◆審議事項

令和7年度予算編成方針について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・財政課⇒承認

◆審議概要

◎説明者から、案件及び政策調整会議における議論の内容を説明し、政策調整会議にて、内容の表現について一部修正のうえ承認された旨、報告。

◎報告後、質疑応答

〈波積副市長〉 予算編成方針（案）の中で、令和11年度まで黒字が維持されることが書かれているが、これ自体は楽観視した見込みである。

その理由として、庁舎建設が遅れ、その支出が先延ばしになっていること、さらに今後の賃金や物価、建築単価の上昇が考慮されていないことが挙げられ、現実はこの見込みより厳しくなる可能性がある。

したがって、一見黒字だから予算を潤沢に要求しても良い、あるいは予算を存分に使用しても良い、ということにはならない。岸和田の将来のための投資はもちろん必要だが、財政状況についても職員や議員、市民の方にも理解していただき、長期的な視野を持った対応をすることが必要である。

〈岸副市長〉 採算性の悪い事業は整理してもらっていると思うが、効率的で市民の方からのニーズが高い事業については、新しい提案が出るように促してほしい。

〈教育長〉 足元の地域経済を見るとまだ非常に厳しい状況であり、本市の財政状況も硬直化している。

一方では、国がそういう現状に鑑みながらも、デフレからの脱却を図る経済成長の千載一遇のチャンスと言っているため、これから国が打ち出す予算については十分に準備をし、国から取れる財源は取るということを職員全員が心がける必要がある。

市の成長に向けた投資については、財政が厳しいからといって考え方まで縮小してしまわないように、柔軟な発想を持ち、いかに将来の発展につなげるかという観点から事業の成否を見極めて、要求するものは要求し、必要なものは予算するという査定を行うべきである。

加えて、行革で取り組んできた事業施策の見直しについては、これからも全庁を挙げてしっかりと取り組むべきである。

〈市長〉 波積副市長がおっしゃったとおり、職員全員と議員が共有することが大事。

岸和田市の財政の現状と将来の見通しを分析し、行財政改革と成長に向けての投資と

いう観点から、事業の優先順位を決定する段階までは全体で共有し取り組みたい。
その中でさらに、限られた予算の中で政策の優先順位をどうつけるかを議論できたら
良い。そういった議論はいくらでも行うべき。

そのためにも、この予算編成方針は全体に共有されるべきものだと思う。

〈総合政策部長〉本案件について、原案のとおり承認してよろしいか。

【異議なし】

⇒本件、原案のとおり承認する。

令和6年9月 12 日

政策調整会議付議依頼書

依頼者名 財務部長

下記事項について、効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第 14 条の規定に基づき、下記のとおり付議を依頼します。

記

付議事項名	令和7年度予算編成方針について
付議の目的 (ポイントを絞り込んで、簡潔に記載すること。)	令和7年度予算編成にあたり、その骨子となる予算編成方針について、付議する。 ■効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第3条第2号に該当
説明者 (部長は説明者に含まない。)	浅野財政課長 高木調整主幹 高橋予算担当長
付議事項の概要	様式別紙に記載(必ず別紙様式をご提出ください。)

別紙

付議会議	令和6年度 第5回会議
付議事項	令和7年度予算編成方針について

★取組の目的

対象	職員
どのような状態を目指す	令和7年度予算編成にあたり、その骨子となる予算編成方針について、付議する。 ■効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第3条第2号に該当

★総合計画上の位置付け

6020402	基本目標	みんなで作る持続可能なまち
↑ここにコードを入力 (コードは「将来ビジョン・岸和田(体系)」シートを参照)	個別目標	持続可能で信頼される行政になっている
	個別目標の方向性	④ 安定的な歳入確保と適切な歳出管理を進める
	行政の役割	中長期の視点で、効果的・効率的な財源配分や単年度収支及び基金・借入金の管理を行う

★現状と課題

<p>「岸和田市健全な財政運営に関する条例」に基づき、持続的かつ計画的な財政運営に資するため、毎年、財政計画を策定し、次年度の予算編成を行っている。</p>
--

(単位:千円)

実施中の取組及び予定する事項	決算(見込額)		予算額	見込額				
	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
財源内訳	国費							
	府費							
	起債							
	一般財源							
	その他							
事業費	計			R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
			0	0	0	0	0	0

★当該事項に関連する人員増の必要性*

人員増の必要性			R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
有	無						

★取組の効果を表す指標

指標名	単位	R4年度	R5年度	R6年度	目標値				
					R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
①									
②									

※事業費及び人員を確約するものではない。